

平成27年度 長野市地域包括支援センター運営協議会 報告書

日 時	平成27年7月17日(金) 午後1時30分～3時30分
会 場	ふれあい福祉センター 4階 会議室3
出席者	委員13人(欠席重倉委員、島田委員、野口委員) 事務局11人 地域包括代表3人
次 第	<p>1 開 会 介護保険課 戸谷補佐</p> <p>2 あいさつ 田中保健福祉部長</p> <p>3 委員交代 長野市歯科医師会 宮原貴彦氏 更級歯科医師会 山崎康憲氏</p> <p>4 協議事項</p> <p>(1) 平成26年度事業報告・収支決算について 説明：介護保険課 戸谷補佐 中部地域包括支援センター 古田補佐 (資料1～資料2)</p> <p>(2) 平成26年度事業内容の評価について 説明：中部地域包括支援センター 古田補佐 (資料3)</p> <p>(3) 平成27年度事業計画・収支予算について 説明：介護保険課 戸谷補佐 (資料2、資料4)</p> <p>(4) 介護予防支援業務の指定居宅介護支援事業所への委託について 説明：中部地域包括支援センター 赤羽係長 (資料5)</p> <p>(5) その他</p> <p>5 閉 会 介護保険課 戸谷補佐</p>
質 疑 応 答 要 旨	
委 員	(1) 平成26年度事業報告・収支決算について 資料1(4)認知症高齢者及び家族支援の実績のうち、認知症初期集中支援チームによる活動として、5ページに介護サービスの導入状況が記載されており、その内、インフォーマルサービスを利用された人が1人いらっしゃるが、どんなサービスを利用されたのか。
事 務 局	傾聴ボランティアのサービスを利用されたと確認しております。
委 員	今後新しい総合事業をやっていく上で、NPO 法人やボランティア等によるインフォーマルサービスにシフトしていくところがあるかと思う。それで、なるべくお金をかけないよということもあるので、インフォーマルサービスを開拓することは必要だと思う。 同じく5ページで認知症カフェへの支援ということ、5ヶ所開設したということだが、具体的にどこで開設されたのか。篠ノ井は、支所に隣接したボランティアセンターだと聞いているが、その他の開設場所はどこかお聞きしたい。
事 務 局	古牧については、もともと私的に宅老所を開設していただいている個人の方が自宅で開設

	<p>していただいた。また芹田については、空き家を貸してくださる方がいて、その場所を使って、地域包括支援センターを委託している法人が運営している。</p> <p>柳原については、柳原地区にふれあい荘という老人ホームがあり、そのホーム内の地域交流室を使用させていただき、柳原住民自治協議会が運営している。</p> <p>豊野については、豊野地区に、社会福祉法人賛育会が運営するさんいくの家というグループホームがあり、その施設のスペースでさんいくの家のスタッフ中心に運営している。</p>
委員	<p>今後も各地域が増えていってほしい。</p>
委員	<p>オレンジカフェに関連しての質問で、開設された施設は5ヶ所とされているが、これは補助金等交付されたところだけが記載されているということでしょうか。例えば地域には、オレンジカフェという名称は使わなくとも、補助金等もらわず単独でやっているところもあると思う。また、認知症の方のみならず、別の介護のことについての相談できる場であったり、総合的に相談できる場ということで、ずっと以前から取り組んでいるところもあると思う。</p> <p>認知症カフェというのは、ある一定の基準があって補助金が交付されたのだとは思いますが、以前から認知症にかぎらず、地域の人の相談・交流の場ということで取り組んでいる所について、長野市ではどの程度把握しているのかお聞きしたい。</p>
会長	<p>今回の報告は、平成26年度の総合相談支援事業として、長野市が取り組んだ事業報告のため、補助金の交付実績としての記載であるが、長野市でそれ以外に把握しているということであれば報告願いたい。</p>
事務局	<p>長野市で全て把握はしていないが、各地域包括支援センターでは、地域の高齢者が集まる場の把握はしていると思う。今後総合事業へ移行していくに当たっては、マップ作りをするなどして、お示しできるようにしていきたい。</p>
委員	<p>地域にそういう場のあることをぜひ周知していってほしい。</p>
委員	<p>オレンジカフェに関連して、先ほどのご意見のとおり、市から補助金等をもらわず、介護者の交流の場や、意見交換の場等について個人的に開設しているものをひろいあげるとたくさんあると思うので、情報収集していただきたいと思う。</p> <p>認知症サポーター講座について、先日自分の地域のお茶の間サロンで講座として開催していただき、寸劇で大変分かりやすい内容であったが、サポーター講座というのは、お茶の間サロンのような、講座を受講する目的で集まった人でなくとも、オレンジリングをもらってよいのか疑問に感じたが、いかがか。</p>
事務局	<p>認知症サポーター講座については、広く認知症について知っていただき、特別なことをするわけではなく、日常の中で気づいたときにやさしく声をかけていただいたり、見守っていただくことを主旨としており、キャラバン・メイトにもその主旨を踏まえた講座に</p>

	<p>していただくようお願いしている。オレンジリングについては、全国共通の事業として厚生労働省が進めているものであり、サポーター講座を受けていただいた人には、サポーターのしるしとして、リングを渡すこととされている。リングの渡し方については、キャラバン・メイトさんに主旨をご理解いただいたうえでお渡しいただくよう改めて確認したいと思うが、お茶の間サロン等での開催については、偏見を持たずにご近所同土地域で支えあっていただくための周知の場として必要と考えているので、今後とも御協力をお願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>資料17ページの5(4)関係機関との連携強化について、この調査の主旨は、今後の新しい総合事業を見据えて、要支援者の受け皿がどの程度あるかということの調査でよろしいか</p>
<p>事務局</p>	<p>御質問のとおり、昨年新しい総合事業の実施を見据えて、各包括支援センターの主任ケアマネジャーに協力していただき、各包括毎に、要支援者のうち何名が訪問及び通所介護の利用があり、どのような利用をしているかの調査を行ったものです。</p>
<p>(2) 平成26年度事業内容の評価について</p>	
<p>委員</p>	<p>各包括支援センター毎に自己評価された結果をみると、評価が5の事業所と、2の事業所があるが、大変大きな差のように感じるが、この評価に対して、市として、指導をするといったことはあるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>それぞれの項目について、具体的に6から7つの評価のチェックポイントがあり、そのチェックポイントの数によって評価の数字が出てくるが、自己評価なので指導はしていない。</p>
<p>委員</p>	<p>競わせているということではないということか。そうでないとすれば、何のために自己評価をするのか意図がよく分からない。</p>
<p>会長</p>	<p>以前の会議で、事業所はどのような方法でこの自己評価を行っているのか、例えば複数の人の評価の平均値であるとか、そういった質問があったと思うので、評価の仕方と、この評価を今後どのように使っていくのかについて、お答えいただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>自己評価については、事業所全体の平均値を取るなどして出た結果を報告いただくようお願いしている。実際包括支援センターの評価は大変難しく、外部評価等が望ましいとは思いますが、現時点では、自己評価を実施することによって、自分の事業所を見直す機会としてもらっている。</p>
<p>会長</p>	<p>実際包括の事業所ではどのように感じているか、委託包括の代表者からお話を伺いたい。</p>

委託包括代表	<p>この評価そのものは、国が求めているもので、包括支援センターは、運営基準に照らし合わせ、事業計画されたものに対し、どう実施したのか、評価しなければならないとされています。直営からの厳しい指導はないにせよ、この評価チェックは自分の業務そのものに関わってくるものです。評価のチェック項目は、例えば権利擁護であれば社会福祉士が担当として評価し、その評価に対して、周りの職員が確認して、所長が最終的に評価するといった方法で評価していますが、評価基準に達しないものがあればどういうところが足りなかったのか検証し、翌年の事業計画に反映させています。また、委託包括運営法人の役員理事会の承認を受けたうえで市へ提出していることを申し添えます。</p>
委託包括代表	<p>私の事業所では、所長が評価したものを全体で確認した上で、どのようなところが足りないのか自己確認するという事で利用しています。</p> <p>自己評価の結果については、次年度の事業計画に反映をさせています。</p>
委託包括代表	<p>私の事業所でも、所長が評価し、それぞれの担当分野で確認をしていますが、自己評価をすることにより、自分自身の反省にもなるので取り組みは必要かと思えます。</p>
委員	<p>自己評価することにより、それが次年度の評価として数字であがってくれば適正な評価が行われていると判断できるというわけですね。</p>
会長	<p>過年度の数字を見ると、徐々に上がってきているので、自己評価の成果があるといえるのではないかと。</p>
委員	<p>自己評価の評価基準は国である程度決まっているとのことだったが、例えばお世話になっている利用者からのアンケート等付随する内容だけでも取ることはできないか。</p> <p>自分たちではやっているつもりでも、実際利用している人からの意見によっては、説明が分かりづらかったり、聞いたことがないという捉え方をする利用者もいるかもしれない。</p>
事務局	<p>利用されている人からの評価も大事なので、利用者アンケートにも取り組む方向で検討させていただきたい。</p>
委員	<p>利用者の意見を聴くということに関連して、自己評価のチェックについては、昨年度も検討したと思うが、業務をきちんとなしていくというところでの指標になるということは確かにあると思うが、地域の人の意見を取り入れ、地域の人とうまくやってきているかというところの評価はあまり現れてきにくい内容であると思う。包括が、利用者、民生委員、地域のケアマネ事業所とどんなふうに関わっているか意見を聴けるようなシステムを作っていただきたい。自己評価の評価内容は、どちらかというとも必ずやらなければならない内容となっている。そこにプラスした地域の意見を反映できるようなアンケートなりがあると何に重点を置いて取り組むべきかもっとはっきりしてくるのではないかとと思う。</p> <p>地域の人と包括がもっと対等に意見を言い合える関係作りがこれからは必要ではないかと思う。</p>

会 長	<p>貴重な意見として、事務局で検討していただきたい。</p> <p>(3) 平成27年度事業計画・収支予算について</p>
委 員	<p>資料2の委託包括の収支予算について、委託包括の収入の額は、前年度の支出額に反映して予算化されるものなのか。</p>
事 務 局	<p>委託包括に支払う包括的支援事業委託料については、定額で決まっており、毎年契約をして支払を行っている。ただし、資料のとおり、地域によって六千人を越える高齢者人口を抱えている包括については、加配の契約をしている。</p> <p>介護予防計画作成収入については、各包括のケアプランの作成数に応じた実績額となっている。</p>
委 員	<p>要望であるが、資料作成時に包括の並びを統一してほしい。</p>
委 員	<p>資料4の6ページ(6)の在宅医療・介護連携の推進で、それぞれ医療機関との連携という記載があるが、各地区で開催される会議には医師は何人くらい出席されているのか。</p>
事 務 局	<p>例えば、ブロックケア会議等には、医師会の協力により地域の先生にご出席いただいているが、包括毎に構成されるメンバーは違っているため何人ということはお答えできない。</p>
委 員	<p>資料4の3ページ(3)介護予防ケアマネジメントのア、はつらつアップ高齢者へのケアマネジメントの中の「コスモス」の計画内容の中で、「介護給付サービスからかかる運動塾対象者かの見極めをします」とあるが、実際のところ見極めはできるのか。</p>
事 務 局	<p>運動塾をお使いいただく人については、二次予防事業対象者(はつらつアップ高齢者)の方ということで、基本チェックリストを実施することにより対象者かどうかの判断をしている。訪問時に、本人の状態や意向を確認したうえで、介護認定を勧めるか基本チェックリストを実施していただくかどうかの見極めはできるということです。</p>
委 員	<p>同じく3ページのイ、アセスメント・モニタリングの実施及び評価の中で、星のさとかから吉田包括の事業計画として、「サービス終了時には、自立を促すためのモニタリング、分析・評価を行い、必要に応じた支援を行います」とあるが、自主的な介護予防へのアプローチや、介護予防グループの紹介等があったりするのか。</p>
委 託 包 括 代 表	<p>各包括では具体的に自主的な介護予防グループや、公民館活動、包括が主催する介護予防教室、かかやき広場等で開催される予防教室等の情報提供をして、その中で本人が選択し、利用につなげていく支援を行っている。</p>
委 員	<p>資料4の4ページ(5)ケア会議の充実で、ケア会議に出す事例(困難事例)があまり</p>

<p>会 長</p>	<p>ないと聞いているが、例えば松本市などは、たくさん上がってきているということを知。計画の中で、安茂里が、「地域の課題を掘り下げ、ネットワークを活かして地域の取組などを検討する」とあるが、地域の介護支援専門員との交流等盛んにやっていくことが必要ではないかと思う。</p> <p>各センターで工夫した取組があるので、昨年度計画の実施成果など、次回の会議で教えてほしい。</p> <p>(5) 介護予防支援業務の指定居宅介護支援事業所への委託について</p> <p>事務局案どおり 承認</p> <p>(6) その他</p> <p>質疑なし</p>
------------	---